



君に届け



SPY x FAMILY



しかのこのこのここしたんたん

決算説明資料

決算説明資料

2024年5月期(2023年6月1日～2024年5月31日)

1. 2024年5月期 決算説明

2. 2025年5月期 業績予想

3. 中期経営計画

<連結決算概要(23年5月期対比)>

売上高 **11,841** 百万円/経常利益 **1,380** 百万円

	23年5月期	24年5月期	増減率
売上高	11,163 百万円	11,841 百万円	6.1 %
営業利益	991 百万円	1,225 百万円	23.6 %
経常利益	999 百万円	1,380 百万円	38.1 %
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	766 百万円	1,158 百万円	51.1 %

- 23/5対比で増収増益となり**過去最高益**
- 売上高は11,841百万円(23/5対比 +6.1%)
- 経常利益は1,380百万円(23/5対比 +38.1%)

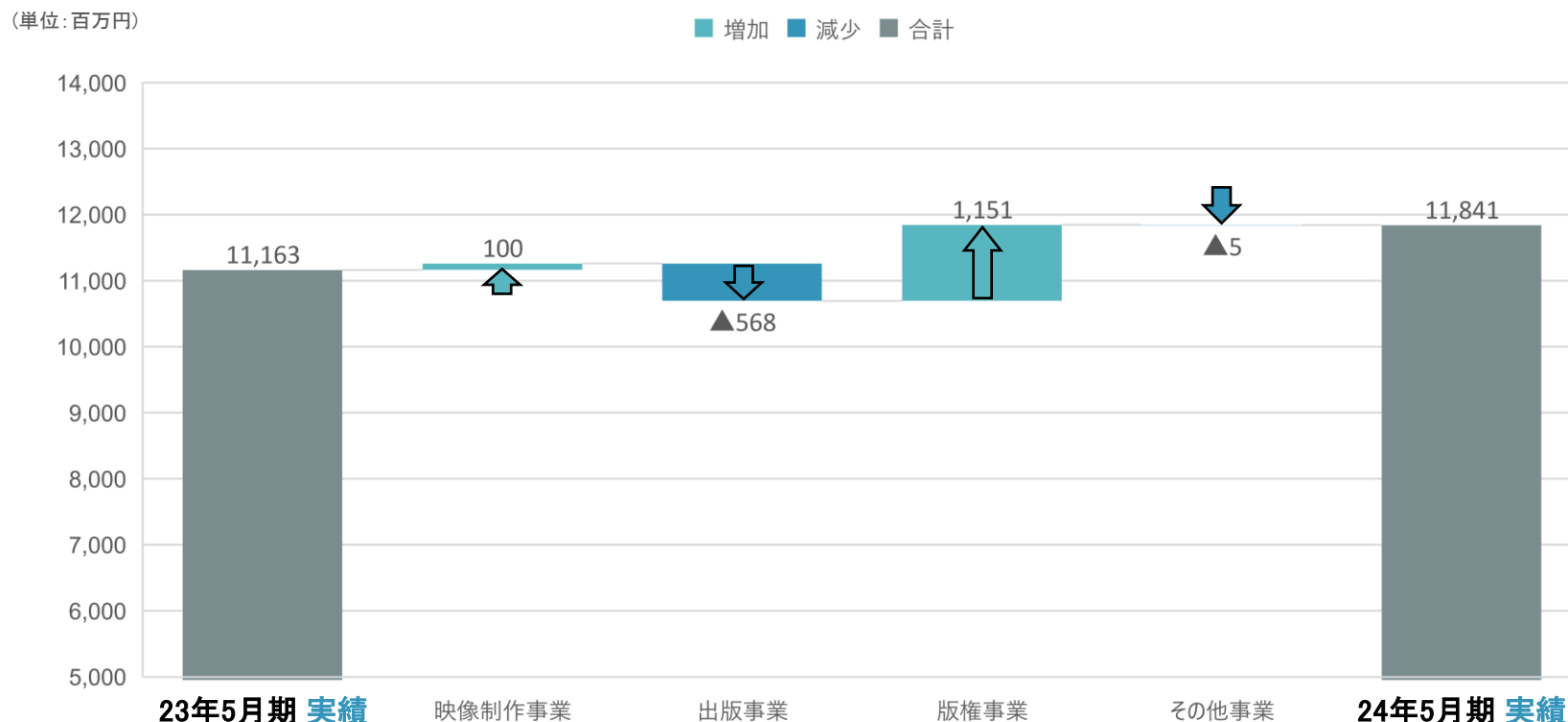
<セグメント別 売上高及び営業利益(23年5月期対比)>

	売上高			営業利益		
	23年5月期	24年5月期	増減率	23年5月期	24年5月期	増減率
映像制作事業	6,106 百万円	6,206 百万円	1.6 %	87 百万円	▲940 百万円	-- %
出版事業	2,903 百万円	2,335 百万円	▲19.5 %	562 百万円	482 百万円	▲14.2 %
著作権事業	1,853 百万円	3,004 百万円	62.1 %	476 百万円	1,823 百万円	282.4 %
その他事業	299 百万円	294 百万円	▲1.6 %	5 百万円	▲18 百万円	-- %

- 映像制作事業は海外から受注した作品の制作期間が長期化するなど受注損失引当金の積み増しが発生し大幅減益
- 全社ベースでの大幅な増益の主要因は著作権事業増収によるもの
- 出版事業はリング・フランカ清算のため同社による出版売上高が減少

<連結決算概要 - 売上高増減内訳>

売上高・23年5月期対比



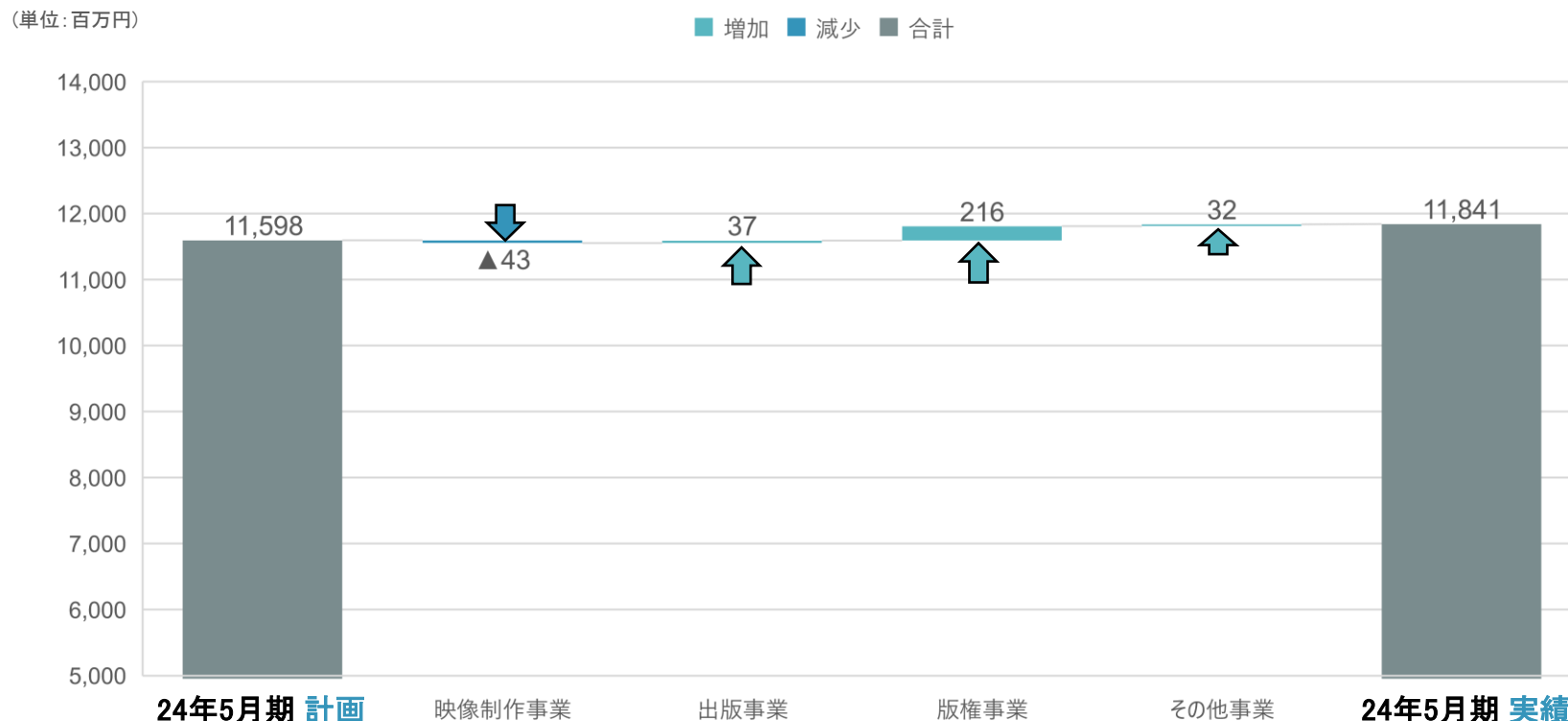
- 映像制作事業はほぼ横ばい
- 出版事業はリング・フランカの清算に伴い減収
- 著作権事業は「SPY×FAMILY」第2期や劇場版、「ハイキュー!!」劇場版などの新作及び過去シリーズ作品が好調に推移したため増収

※ 百万円以下切捨てのため、差額の合計額が全体額と一致しない場合がある

※ 進捗基準では売上原価の発生に伴い売上高及び粗利が計上されていくため、作品受注状況に変化がなくとも計画と実績が大きく乖離する場合がある

<連結決算概要 - 売上高増減内訳>

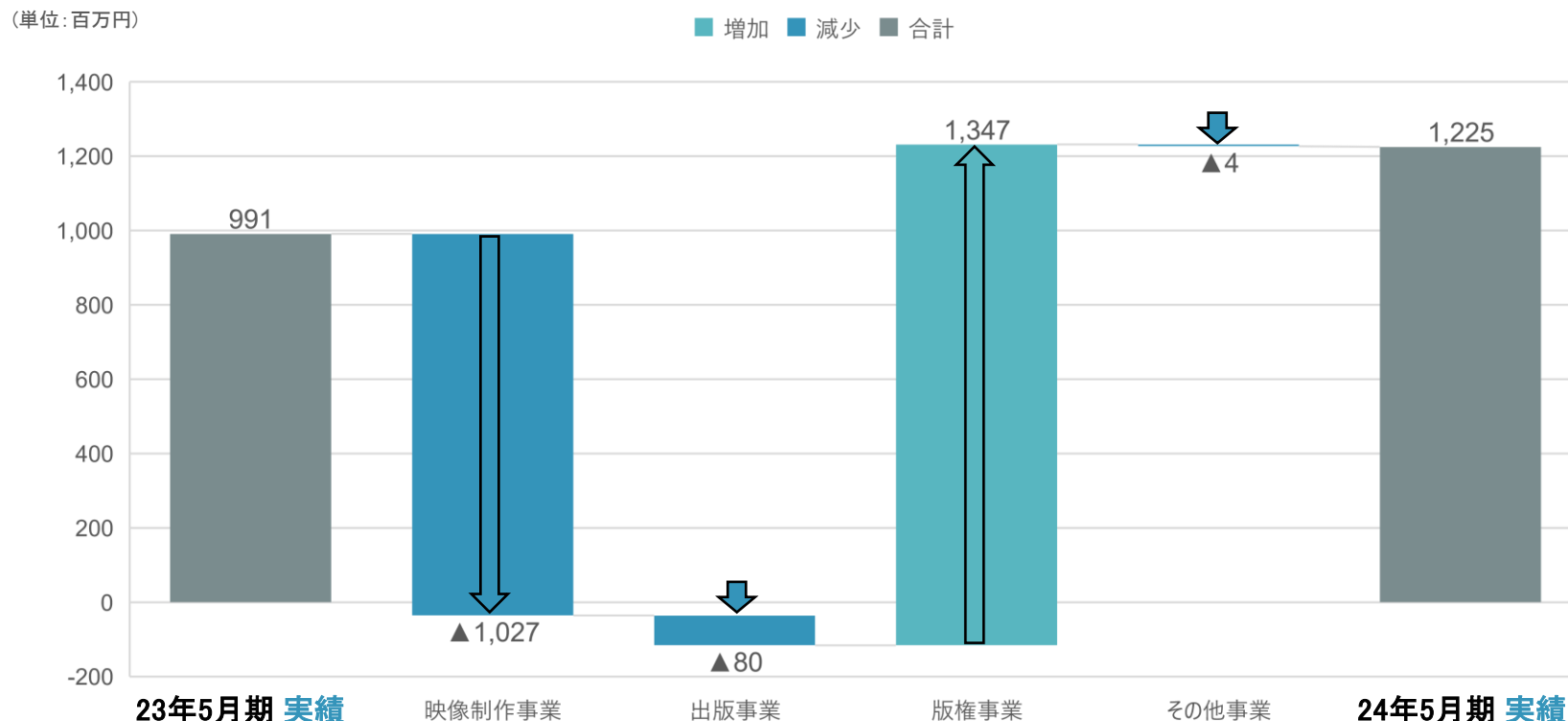
売上高・4月12日開示の計画対比



- 映像制作、出版事業は計画通り
- 著作権事業は「進撃の巨人」や「蒼穹のファフナー」などの過去シリーズ作品が好調に推移加えて、「ハイキュー!!」劇場版が計画よりも前倒し計上されたため増収

<連結決算概要 - 営業利益増減内訳>

営業利益・23年5月期対比



- 映像制作事業は海外から受注した複数作品が損失となり大幅減益
- 出版事業は「魔法使いの嫁」の休載の影響により微減
- 著作権事業は「SPY×FAMILY」第2期や劇場版、「ハイキュー!!」劇場版などの新作及び過去シリーズ作品の売上高の増加により大幅な増益となった
(出資金が減価償却済の過去シリーズ作品は利益貢献度が高い)

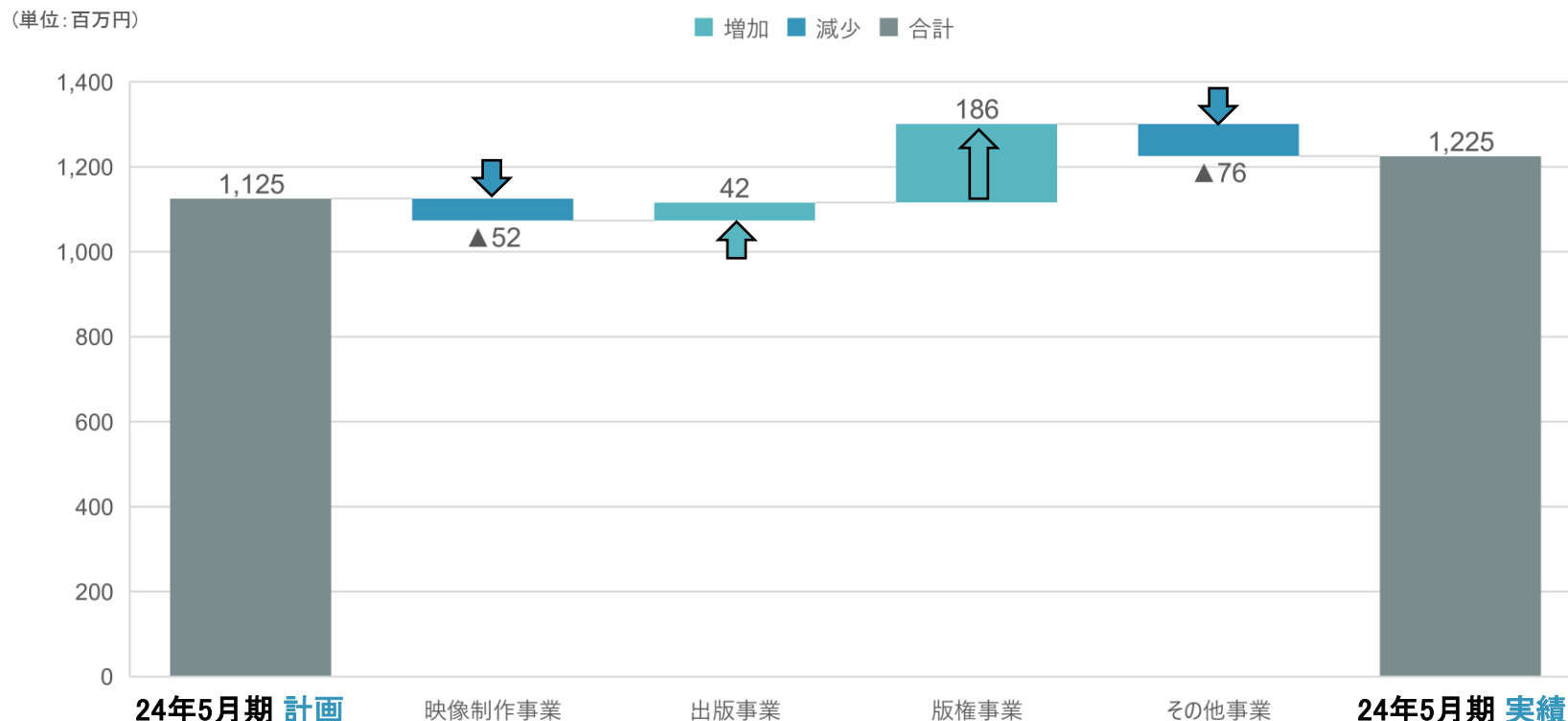
※ 作品への出資金は映像マスター及びコンテンツ資産として計上され、作品の利用開始から一定期間をもって減価償却を行う

※ 百万円以下切捨てのため、差額の合計額が全体額と一致しない場合がある

※ その他事業には全社費用及び消去が加算されているため、その損益は実態より低下して表示されている

<連結決算概要 - 営業利益増減内訳>

営業利益・4月12日開示の計画対比



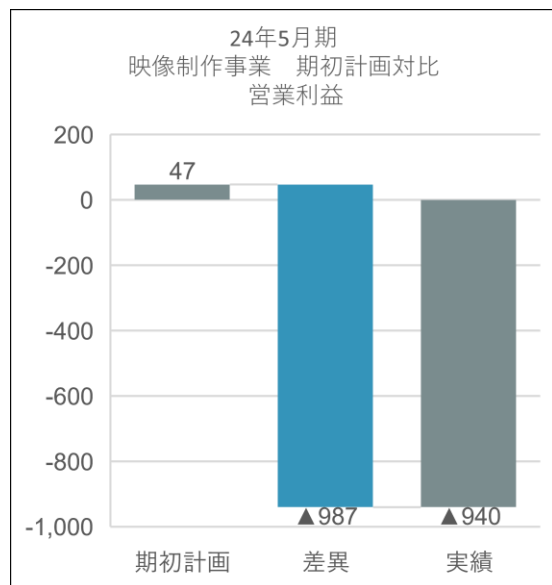
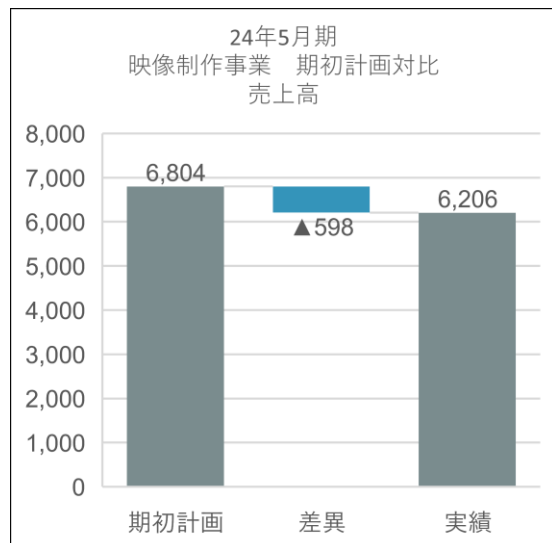
- 映像制作事業は売上原価の発生進捗率が低く推移したため計画対比減
また、海外からの受注作品が赤字転落したため受注損失引当金の積み増しが発生し計画対比減
- 出版事業はメディア化した作品の電子書籍売上高が好調だったため計画対比増
- 著作権事業は「ハイキュー!!」劇場版の一部が計画よりも前倒し計上されたことに加え、「進撃の巨人」、「蒼穹のファフナー」などの過去シリーズ作品が好調だったため計画対比増

※ 会計方針が22年5月期より進捗基準へ変更になったため売上高及び利益は原価発生進捗率により変動する

※ 百万円以下切捨てのため、差額の合計額が全体額と一致しない場合がある

※ その他事業には全社費用及び消去が加算されているため、その損益は実態より低下して表示されている

<映像制作事業 要因分析>



■ 売上高、売上原価

- 売上高は、売上原価の発生進捗率が低く推移したため計画対比減
- 売上原価は、制作中の作品の実行予算の洗い替えを行い、損失が出る可能性があるものに対しては将来の損失発生見込みを受注損失引当金として計上している

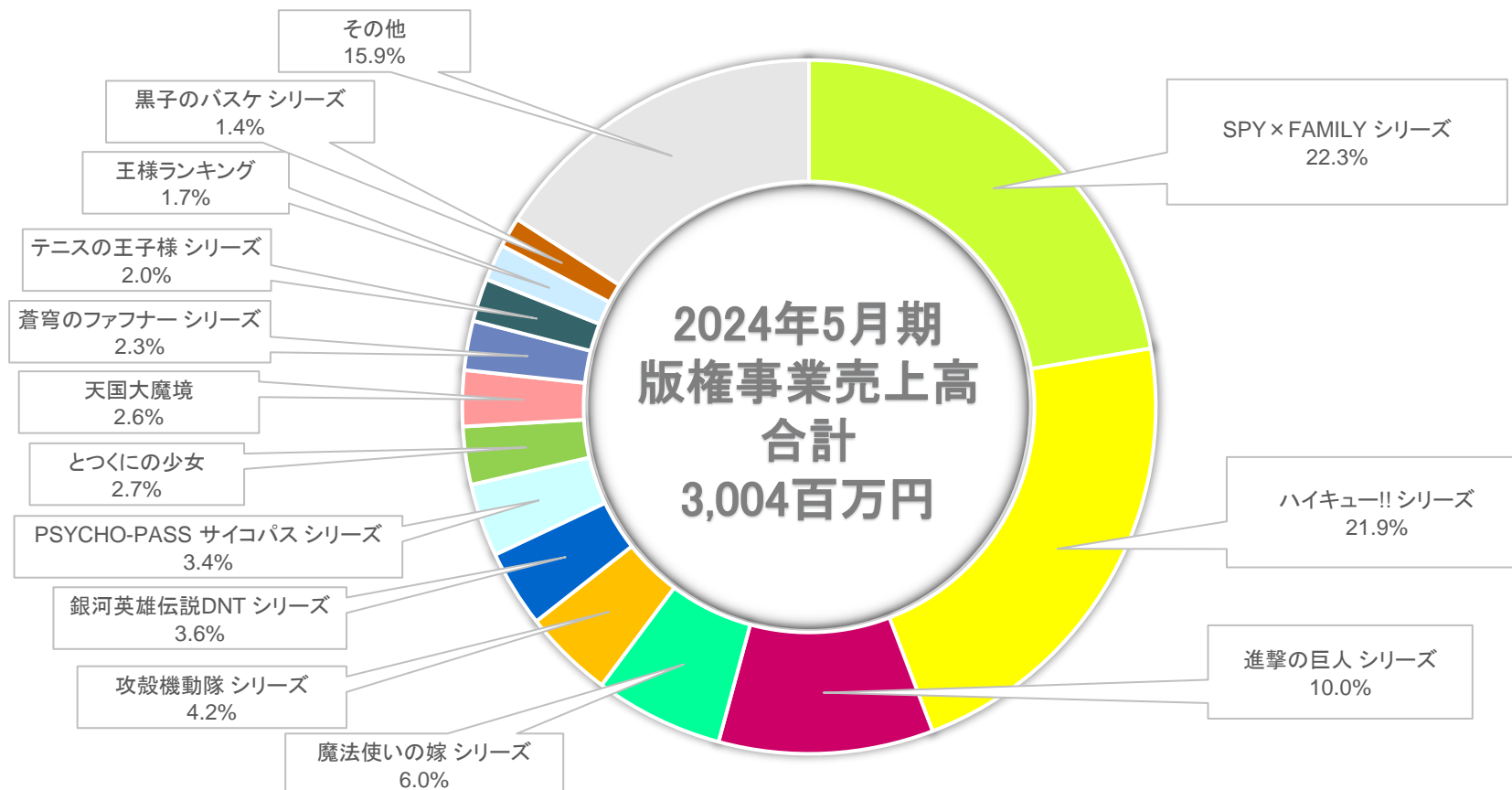
■ 海外からの受注作品の赤字転落要因と対策

- 24年5月期の映像制作事業は海外配信会社からの高額受注を中心に大きく損失を計上した
- 受注額が高いほど赤字になるという逆転減少が発生した
- 海外からの高額受注が赤字となった主要な理由は下記
 - ① 海外からの高額受注は、受注時に発注元が予算項目の精査を行うため制作会社側では自由度が低く、また高額受注であるため制作に関わる個々の単価が高く設定されていた
この状況下で制作期間の延長が発生し、高単価にて設定された月額固定費が損失に転じるという現象が発生した
 - ② 制作費には「予備予算」が認められていないため、スケジュールの延長や想定外のコスト発生に耐えうる受注では無かった
 - ③ 受注時(2020年時)には高額であった制作費も、ここ数年の制作費の高騰により、日本における受注との大きな差はなくなってしまった。このためクリエイターや外部発注会社の確保に苦戦
これがスケジュール延長につながり、大きな赤字を計上することとなった

■ 対策

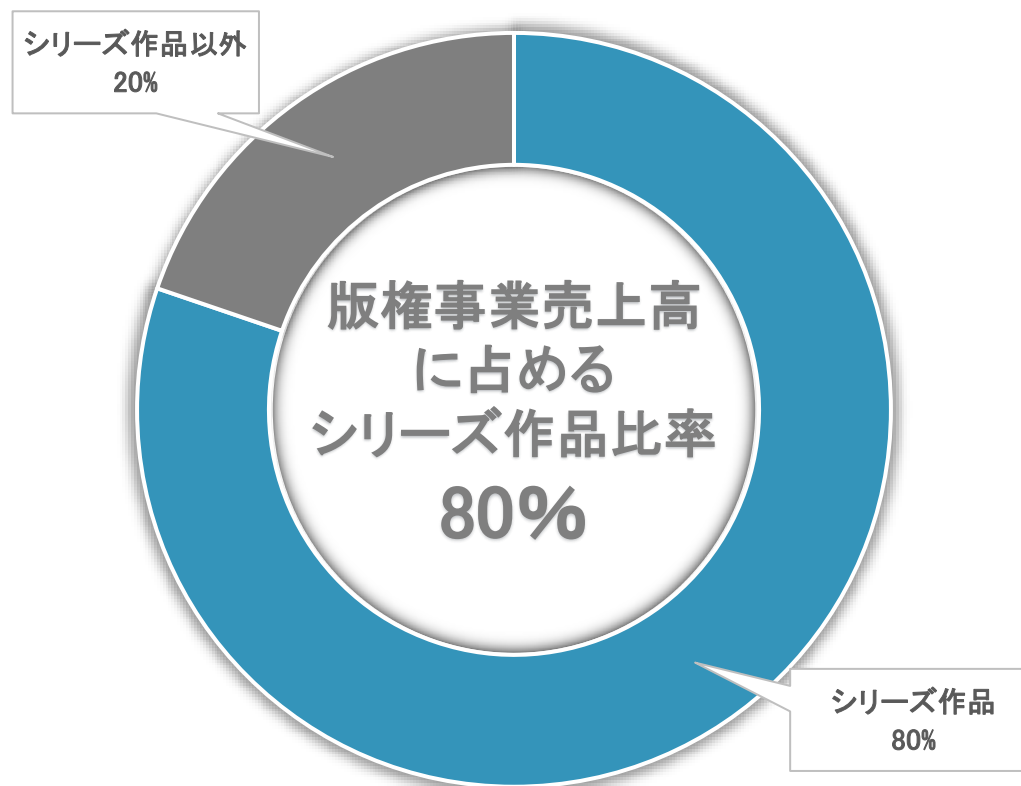
- ① 海外配信会社と上記赤字転落要因について交渉を行った
 - ② 状況を理解いただき、今後の発注においては上記課題を対応できる予算組とすべく合意がなされた
- ※ 現在のインフレ状況下での優秀なクリエイターの確保に関わるコスト、及び社員人件費は高騰を続けている
 ※ 相当な高額受注が発生しないと映像制作事業の損益は黒字化することは難しい
 ※ 映像制作の受注単体で判断するのではなく、そこから発生する著作権事業のキャッシュフローとのバランスをみて判断していく

<タイトル別 著作権事業売上高構成>



- 「SPY×FAMILY」第2期及び劇場版及び「ハイキュー!!」劇場版が大きく売上に貢献したほか、「進撃の巨人」、「攻殻機動隊 SAC_2045」、「魔法使いの嫁(第1シーズン)」、「PSYCHO-PASS サイコパス」、「王様ランキング」、「銀河英雄伝説DNT」等の継続中シリーズ作品が好調に推移
- 「SPY×FAMILY」劇場版及び「ハイキュー!!」劇場版の配分報告が当初の計画から前倒して製作委員会より報告によって両作品の構成比率が大幅に増加している

＜著作権事業売上高に占める単発作品・シリーズ作品比率＞



- 著作権事業売上高においてはシリーズ作品が売上高の約8割を占めている
- 単発作品のヒットでは継続的な著作権収入キャッシュフローを生み出せないため、シリーズ作品を事業の中核に据える

< 著作権事業の計画と実績について >

新規作品

	興行収入	
劇場版 SPY×FAMILY CODE: White	実績	62.6億円
劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦	実績	112.1億円 (7/12時点)

- 新規作品の国内興行収入やライセンスはほぼ計画通りの実績となった
- 上記2作品の海外販売については上振れる見込み

過去作品

魔法使いの嫁 TVシリーズ(第1シーズン)	ハイキュー!! シリーズ <small>※劇場版を除く</small>
攻殻機動隊 SAC_2045	進撃の巨人シリーズ

- 過去作品の著作権収入の好調が上振れ要因となっている

<タイトル別 著作権事業分析(増減要因)>

「SPY×FAMILY」シリーズ



2023年12月22日より
劇場公開

国内興行収入は62.6億
円。海外での公開も好
調に推移し海外販売の
MGを計上

計画対比大幅増

「ハイキュー!!」シリーズ



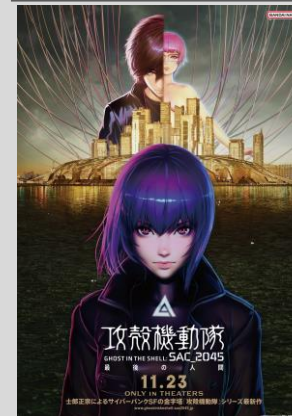
2024年2月16日より
劇場公開

国内興行収入は112億
円突破。海外上映収入
も順調に推移

24/5は国内上映収入
を計上し、25/5に海外
販売のMGを計上予定

計画対比大幅増

攻殻機動隊 SAC_2045



関連商品ライセンスや
ゲームコラボライセンス
が好調に推移

計画対比増

魔法使いの嫁



第1シーズン(2017年放送)
の海外配信売上が
好調に推移

計画対比増

「進撃の巨人」シリーズ



2023年11月に
The Final Season
完結編(後編)が放送

配信をはじめ、
関連商品ライセンスが
好調に推移

計画対比増

「PSYCHO-PASS サイコパス」シリーズ



劇場作品の海外配信
売上や関連商品ライセ
ンスが好調に推移

また、劇場展開による
既存シリーズの配信も
好調に推移

計画対比増

<タイトル別 出版事業分析(増減要因)>

転生貴族の異世界冒険録



2023年4月期のテレビアニメ化により新規読者を獲得し、電子書籍を中心に通期売上高に貢献

魔導具師ダリヤはうつむかない ～Dahlia Wilts No More～



2023年8月にコミックス第6巻を発売
既刊を含め売上高が好調に推移

2024年7月にコミックス第7巻を発売
2024年7月に原作小説がテレビアニメ化

決算説明資料

2024年5月期(2023年6月1日～2024年5月31日)

1. 2024年5月期 決算説明

2. 2025年5月期 業績予想

3. 中期経営計画

<2025年5月期 通期業績予想>

売上高 **12,993** 百万円/経常利益 **1,718** 百万円

	24年5月期 (実績)	25年5月期 (予想)	増減率
売上高	11,841 百万円	12,993 百万円	9.7 %
営業利益	1,225 百万円	1,737 百万円	41.8 %
経常利益	1,380 百万円	1,718 百万円	24.5 %
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,158 百万円	1,116 百万円	▲3.6 %
1株当たり配当金	60.00 円	15.00 円	

売上高は12,993百万円(前期比 +9.7%)、経常利益1,718百万円(前期比 +24.5%)の見込み

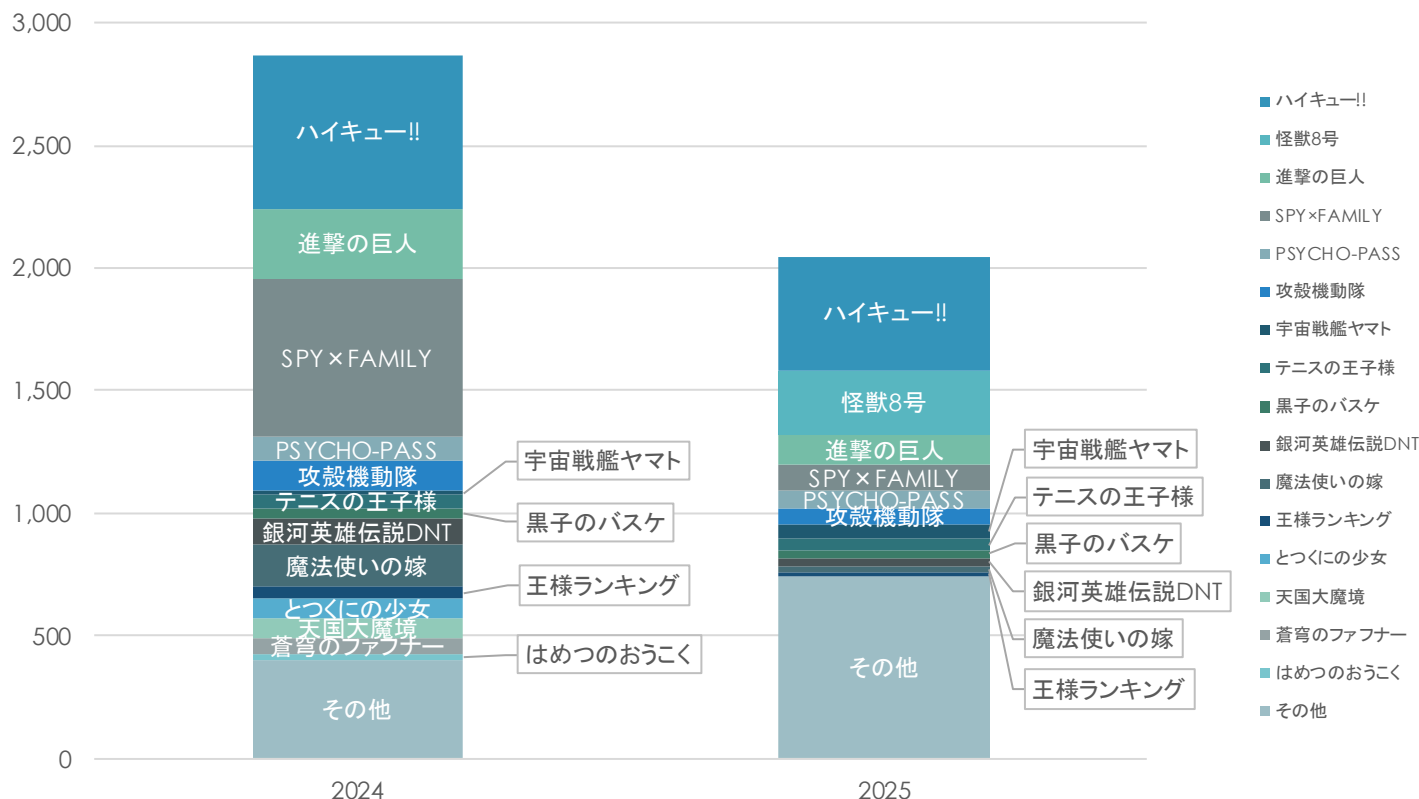
経常利益は過去最高益の見込み

<2025年5月期 通期業績予想 セグメント別>

	売上高			営業利益		
	24年5月期	25年5月期	増減率	24年5月期	25年5月期	増減率
映像制作事業	6,206 百万円	6,165 百万円	▲0.7 %	▲940 百万円	▲461 百万円	-- %
出版事業	2,335 百万円	2,506 百万円	7.3 %	482 百万円	463 百万円	▲3.9 %
著作権事業	3,004 百万円	3,582 百万円	19.2 %	1,823 百万円	1,429 百万円	▲21.6 %
その他事業	294 百万円	737 百万円	150.7 %	▲18 百万円	434 百万円	-- %

- 映像制作事業は売上高前期比ほぼ横ばい
営業利益については、人件費やクリエイター確保のコスト増加、賃料の高騰を受けて赤字となる
ただし将来予想発生原価の見直しを行い、24/5に受注損失引当金を前倒して計上したため、25/5は24/5対比で改善の見通し
- 出版事業売上高は電子書籍を中心とした売上増が見込まれるため24/5対比増
営業利益については、インフレによる原価増大が見込まれるため24/5対比微減
- 著作権事業は自社出資100%作品の大型ライセンスが著作権事業の売上高として計上されるため、24/5対比で大幅増
ただし、当該作品の出資償却費が一括して著作権事業原価に計上されるため、営業利益は24/5対比減の見込み
- その他事業については25/5より商品化事業の売上高を”その他事業”として計上することになったため、24/5対比で増収増益

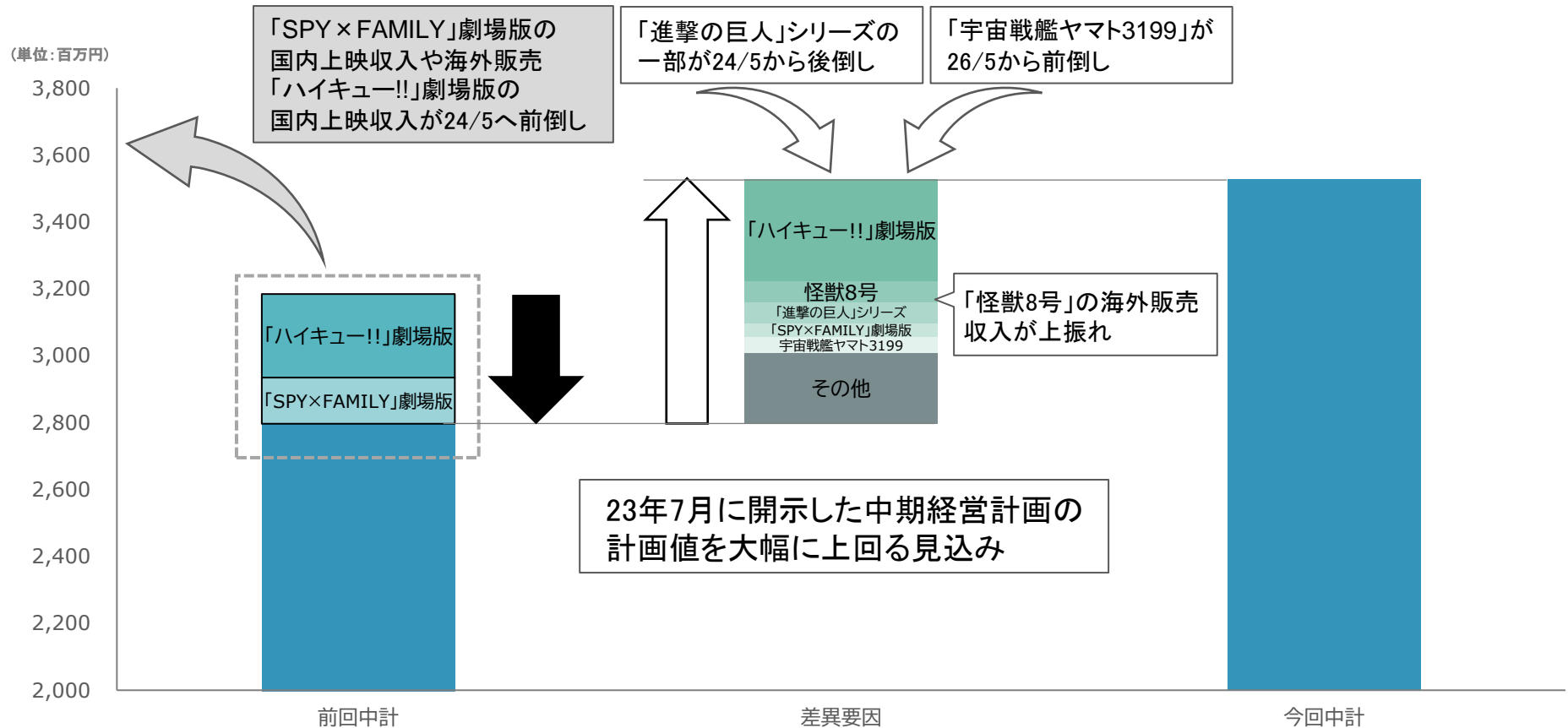
<2025年5月期 版權事業売上高推移>



- 自社100%出資作品の版權事業売上高は実質的に映像制作事業売上高とみなされるため、当資料からは除いており、決算短信等で開示している版權事業売上高の数値とは乖離がある
- 「SPY×FAMILY」劇場版及び「ハイキュー!!」劇場版の劇場上映収入が24/5に前倒し計上され、25/5は反動減(自社100%出資作品の版權収入を加えた場合では24/5対比+19.2%の増収となる)

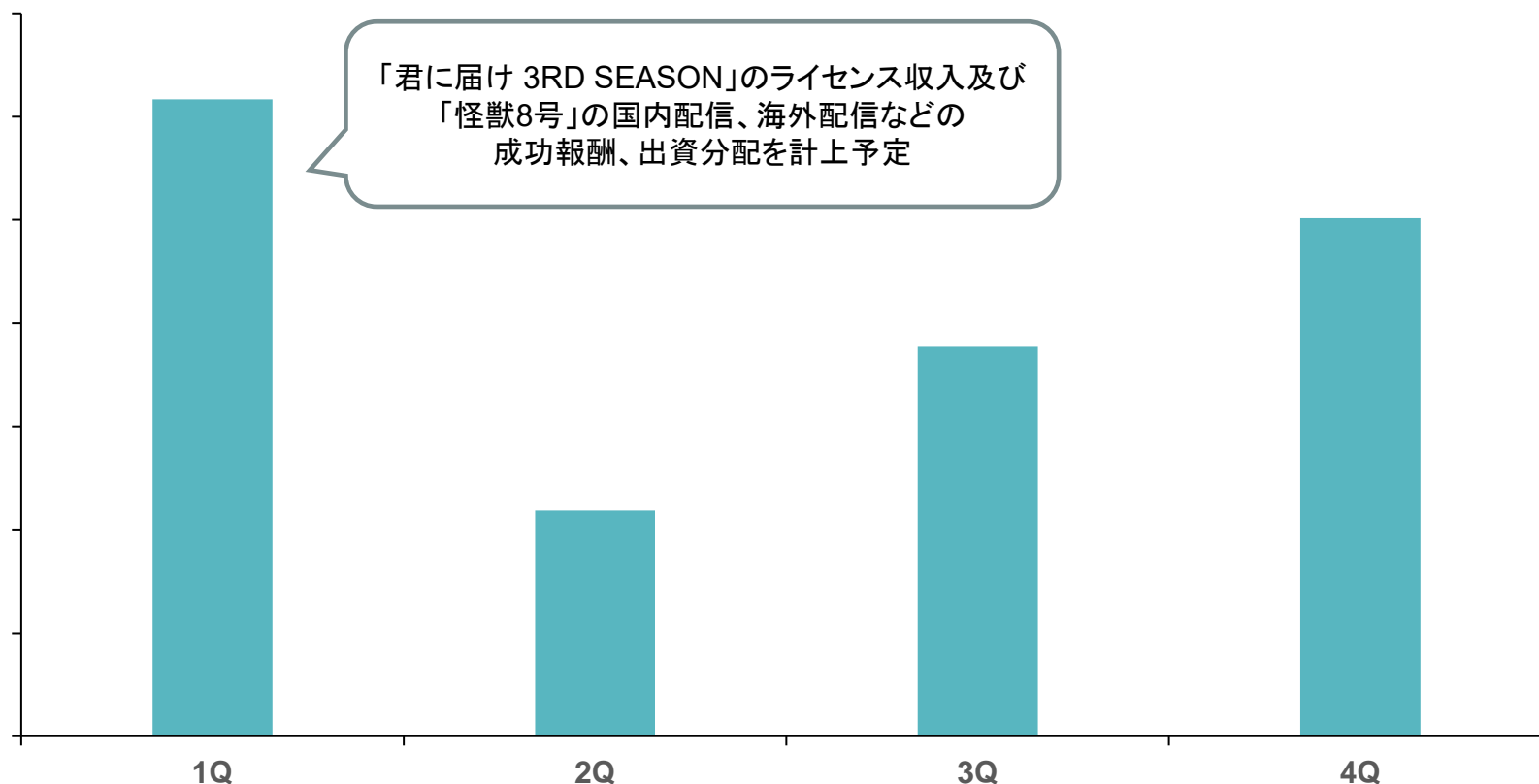
※ 自社出資100%作品を除いているため、決算短信で開示している版權事業売上高の数値とは乖離がある
 ※ 版權事業売上高推移はあくまで計画であり、個々の作品の状況により後倒しの可能性がある

<25年5月期 著作権事業売上高 前回中期経営計画との増減要因>



- 25/5計上予定だった「SPY×FAMILY」劇場版と「ハイキュー!!」劇場版の著作権収入が国内上映収入を中心に24/5へ前倒しで計上
- 「ハイキュー!!」劇場版のライセンス収入、海外上映収入などが上振れ
- 「怪獣8号」の海外販売収入が上振れ
- 「SPY×FAMILY」劇場版の海外上映収入やライセンスが好調のため上振れ
- 24/5計上予定の「進撃の巨人」シリーズの配信収入が一部後倒しで計上
- 26/5計上予定の「宇宙戦艦ヤマト3199」が25/5へと前倒しで計上
- 上記の要因により、24/5へ前倒しとなった減少分を上回り、25/5の著作権事業売上高は増収の見込み

<2025年5月期 通期業績予想 四半期毎の経常利益イメージ>



- 自社100%出資作品である「君に届け 3RD SEASON」のライセンス収入が24年8月に一括で計上予定
- 作品の納品時期や著作権収入の報告がなされる時期の変動により四半期毎の経常利益は大きく変動する可能性がある

<商品化事業の計上科目の変更>

24/5以前

売上高
映像制作事業
出版事業
著作権事業
その他事業
売上原価
売上総利益
販売費・一般管理費
営業利益
営業外収益 商品化事業
営業外費用
経常利益
法人税等
当期純利益

25/5以降

売上高
映像制作事業
出版事業
著作権事業
その他事業 商品化事業
売上原価
売上総利益
販売費・一般管理費
営業利益
営業外収益
営業外費用
経常利益
法人税等
当期純利益

- 営業外収益として計上されていた商品化事業収益が、25/5よりその他事業にて計上されることとなった
- 商品化事業には、自社開発商品の販売と、他社との共同事業による収益分配金の2種が存在する

決算説明資料

2024年5月期(2023年6月1日～2024年5月31日)

1. 2024年5月期 決算説明

2. 2025年5月期 業績予想

3. 中期経営計画

<連結3カ年事業計画>

	24年5月期	25年5月期	26年5月期	27年5月期
売上高	11,841 百万円	12,993 百万円	13,819 百万円	14,466 百万円
営業利益	1,225 百万円	1,737 百万円	2,128 百万円	2,324 百万円
経常利益	1,380 百万円	1,718 百万円	2,091 百万円	2,280 百万円
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,158 百万円	1,116 百万円	1,267 百万円	1,311 百万円
1株当たり配当金	60.00 円	15.00 円	15.00 円	16.00 円

- 経常利益は25/5から3期連続最高益更新の見込み

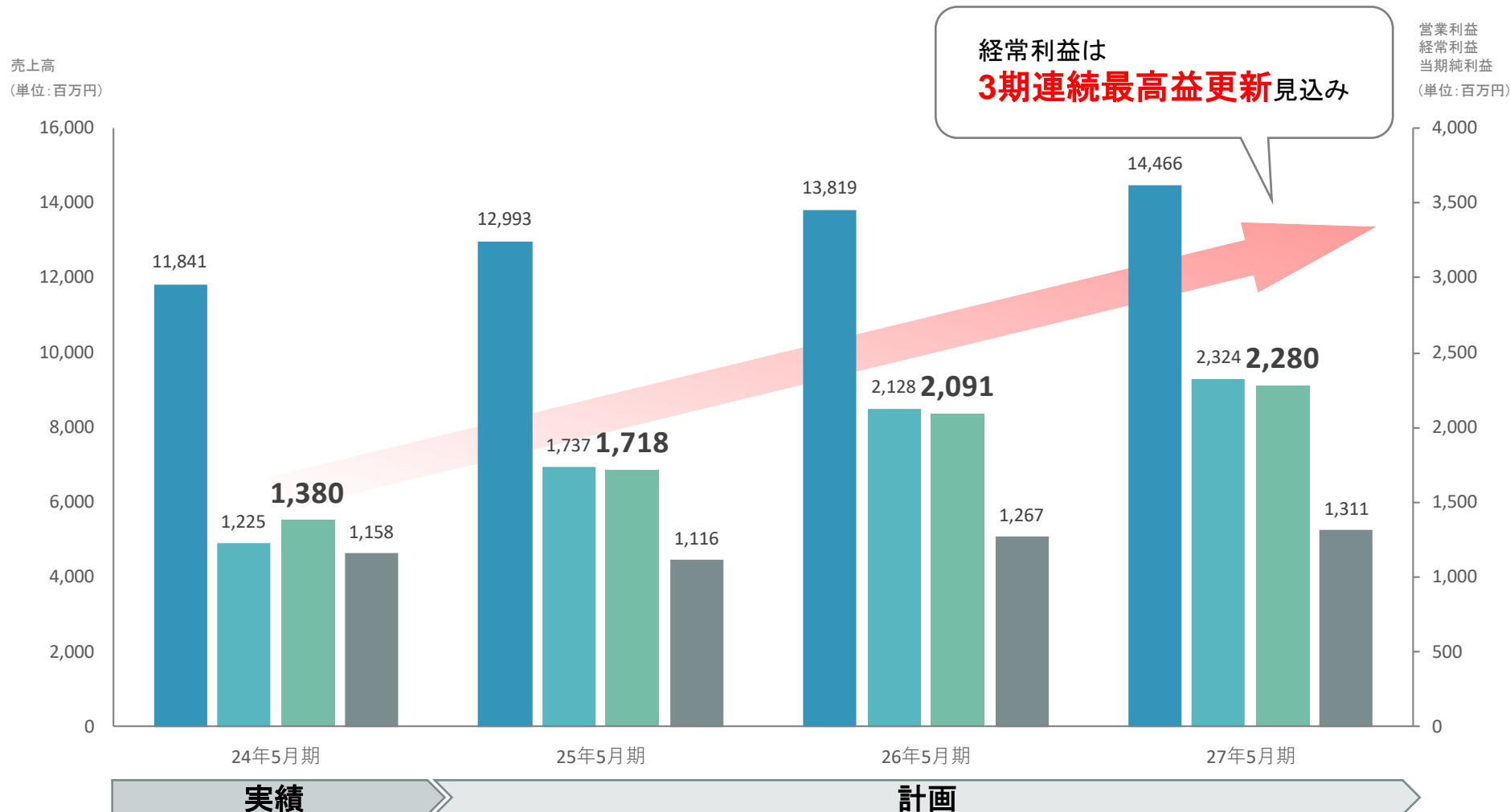
< 前回中期経営計画との比較 >

		25年5月期	26年5月期	27年5月期
売上高	前回中計	13,117 百万円	13,076 百万円	-- 百万円
	今回中計	12,993 百万円	13,819 百万円	14,466 百万円
	差異	▲124 百万円	+743 百万円	-- 百万円
営業利益	前回中計	2,006 百万円	1,376 百万円	-- 百万円
	今回中計	1,737 百万円	2,128 百万円	2,324 百万円
	差異	▲269 百万円	+752 百万円	-- 百万円
経常利益	前回中計	2,002 百万円	1,565 百万円	-- 百万円
	今回中計	1,718 百万円	2,091 百万円	2,280 百万円
	差異	▲284 百万円	+526 百万円	-- 百万円
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	前回中計	1,268 百万円	1,073 百万円	-- 百万円
	今回中計	1,116 百万円	1,267 百万円	1,311 百万円
	差異	▲152 百万円	+194 百万円	-- 百万円

- 25/5は、著作権事業が好調なもの、「THE ONE PIECE」の映像制作事業が26/5へと後倒しされることにより前回中計対比で減益。26/5が前回中計対比で大幅増益

<連結3カ年事業計画>

■ 売上 ■ 営業利益 ■ 経常利益 ■ 当期純利益



経常利益は
3期連続最高益更新見込み

営業利益
経常利益
当期純利益
(単位:百万円)

3. 中期経営計画

<セグメント別 営業利益の前回中期経営計画との比較>

		25年5月期	26年5月期	27年5月期
映像制作事業	前回中計	292 百万円	57 百万円	-- 百万円
	今回中計	▲461 百万円	251 百万円	95 百万円
	差異	▲753 百万円	+194 百万円	-- 百万円
出版事業	前回中計	316 百万円	377 百万円	-- 百万円
	今回中計	463 百万円	550 百万円	571 百万円
	差異	+147 百万円	+173 百万円	-- 百万円
著作権事業	前回中計	1,517 百万円	706 百万円	-- 百万円
	今回中計	1,429 百万円	1,005 百万円	1,013 百万円
	差異	▲88 百万円	+299 百万円	-- 百万円
その他	前回中計	▲119 百万円	235 百万円	-- 百万円
	今回中計	434 百万円	+451 百万円	774 百万円
	差異	+553 百万円	+216 百万円	-- 百万円

THE ONE PIECEの
後倒しにより減少

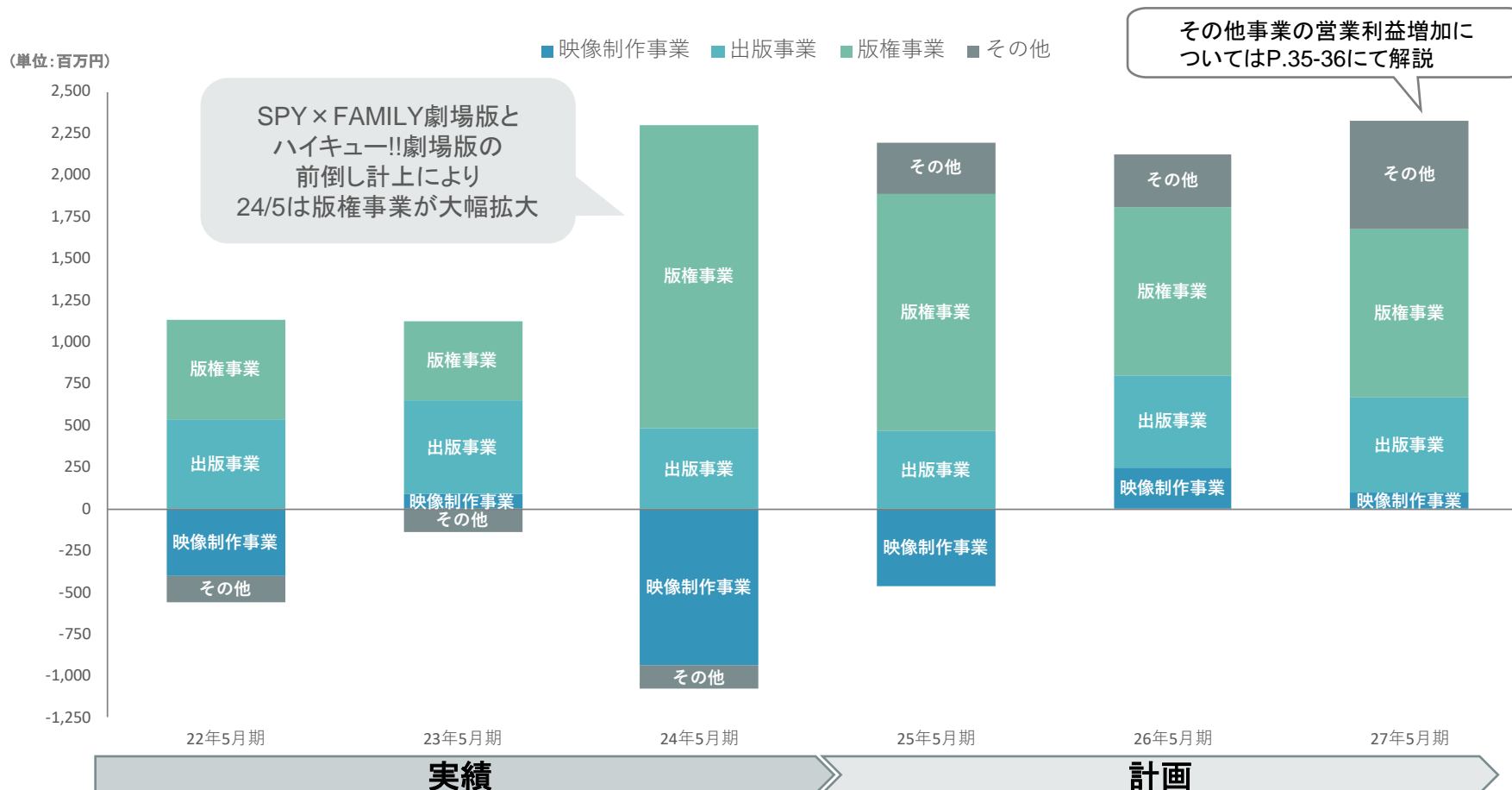
複数作品の出資増加
に伴う減価償却費の
増加のため

25年5月期より
商品化事業が
その他収入に
計上されるよう
なるため増加

怪獣8号第2期の
前倒しにより増加

- 映像制作事業は「THE ONE PIECE」が25/5から26/5へと期ズレしたため25/5は減益の見込み
- 著作権事業は「怪獣8号」第2期の前倒しにより26/5は大幅増益の見込み

＜連結3カ年事業計画- セグメント別営業利益計画＞



- 出版事業は安定成長
- 著作権事業は年度別で見ると大きく増減を繰り返すが、中長期的な成長を目指す
- 自社商品開発とその海外販路の拡大を行っており、その他事業の営業利益が増加する見込み
- ヒットシリーズの継続と、当該作品著作権収入の伸長、及び商品展開等が成長ドライバーとなる

<基本戦略 I>

作品パイプライン

中長期的なキャッシュフロー獲得を目指し **シリーズ作品を事業の中核** とする



新規IP



人気漫画原作作品

大型出資

人気ライトノベル原作作品

大型出資

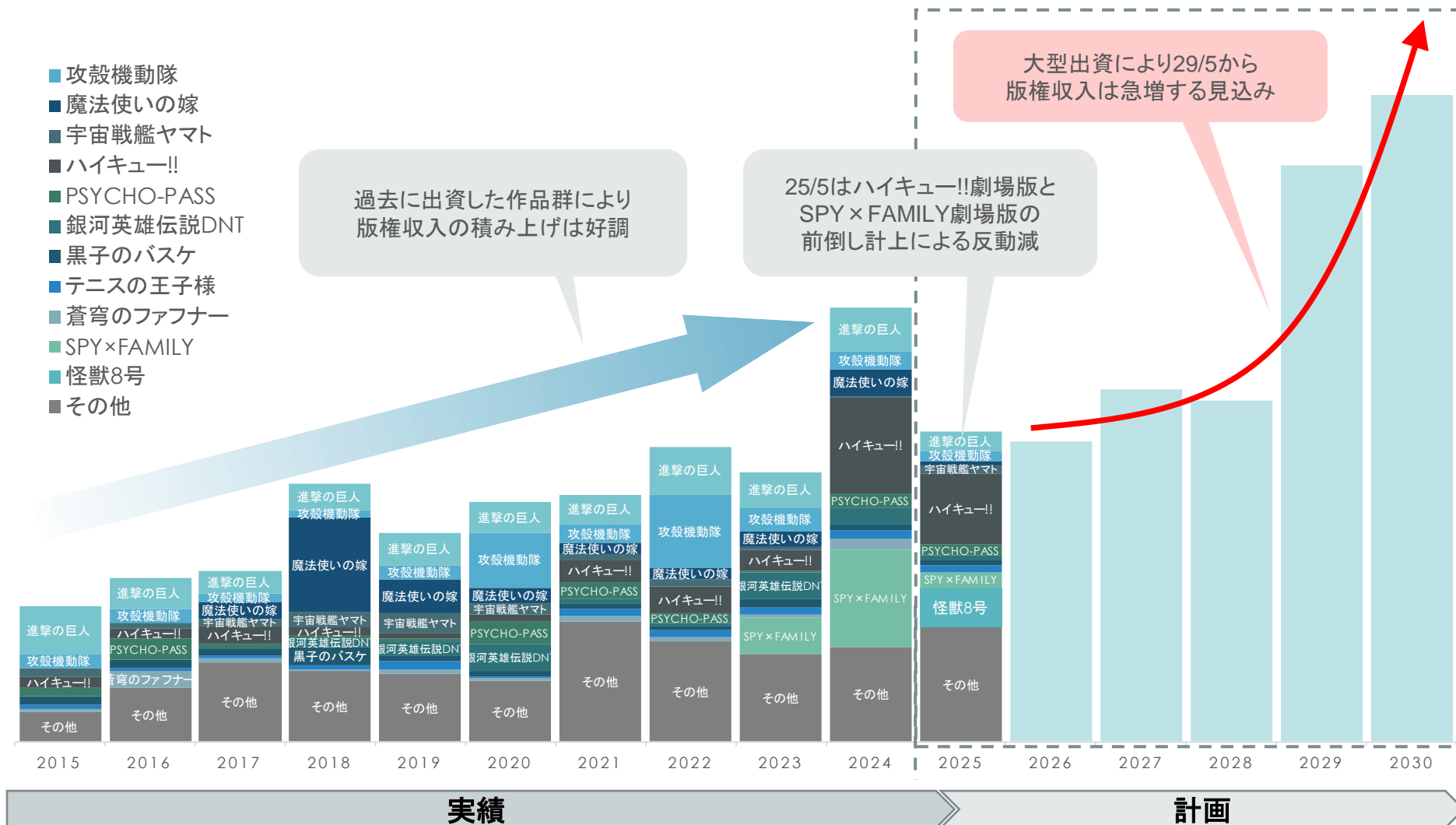
超大型SFロボット作品

大型出資

超大型SF作品

<基本戦略 I>

過去10年間の著作権事業売上高推移と今後の収入予測



※ 自社出資100%作品を除いているため、決算短信で開示している著作権事業売上高の数値とは乖離がある
 ※ 著作権事業売上高推移はイメージであり、具体的な増加時期は個々の作品の状況により前倒し、後倒しの可能性がある

<基本戦略 I>

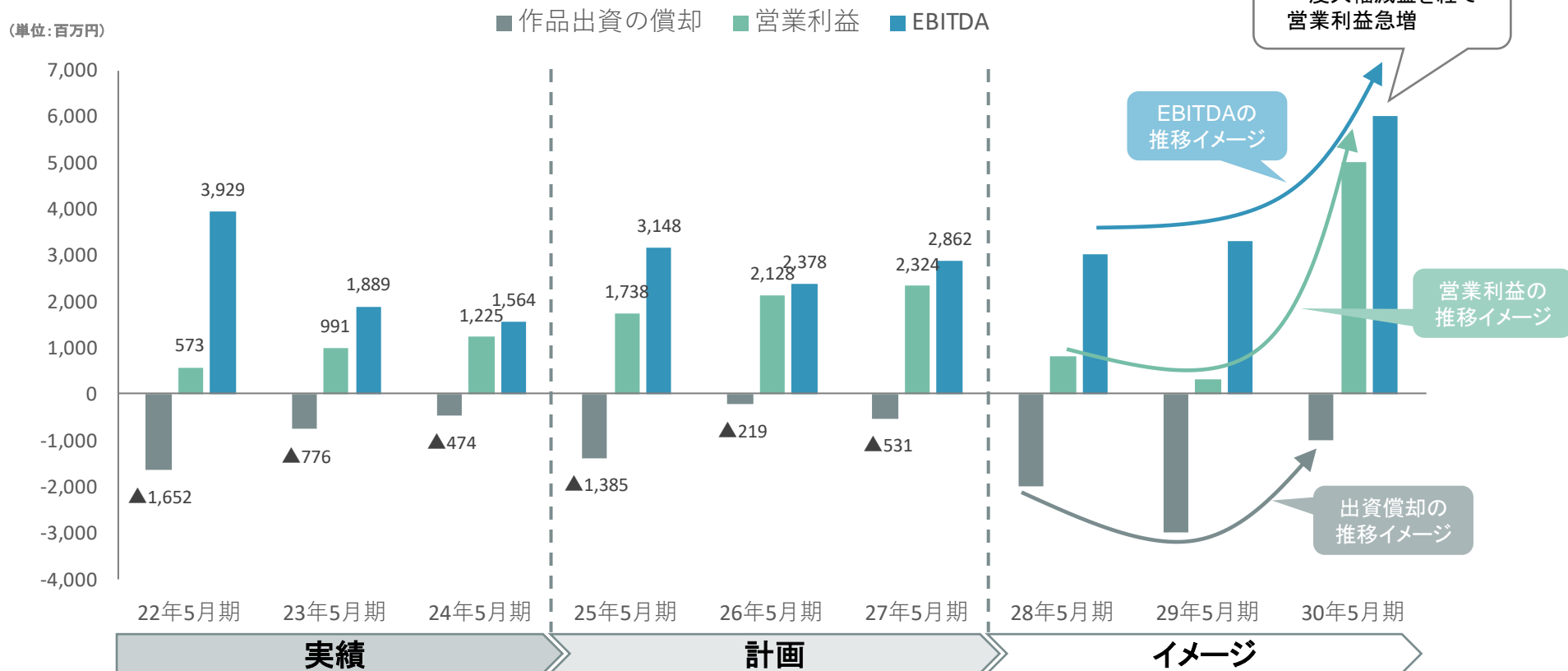
著作権収入の積み上げイメージ



- シリーズ作品を制作・展開することで継続的な著作権収入を獲得
- 新規受注作品についても長期展開を目指す作品を優先して受注、著作権収入の積層化を目指す
- 単発作品のヒットよりも作品を長く続けることが著作権収入の増大へとつながる

<基本戦略 I>

EBITDAの推移イメージ

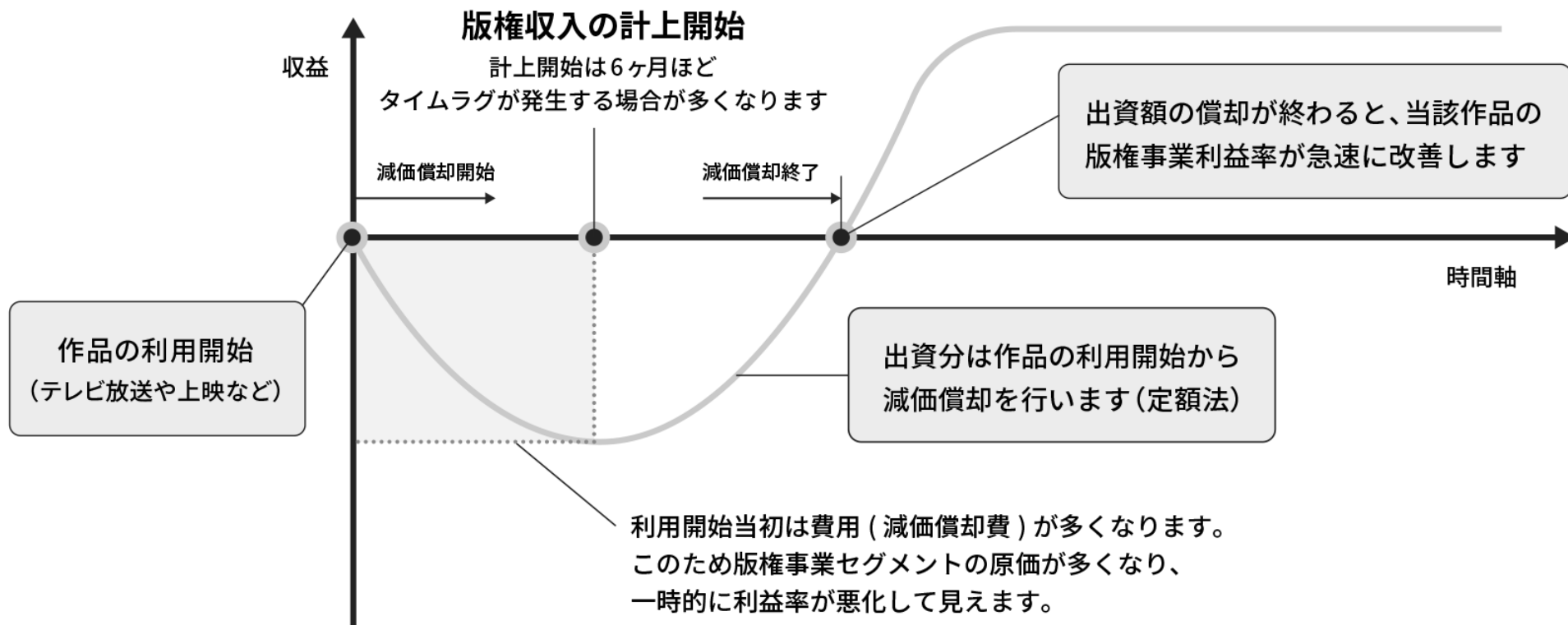


- 作品パイプラインで明示した大型出資を行う期は、出資償却大幅増のため営業利益が減少する見込み
- 一時的に営業利益は減少するが、長期的キャッシュフロー獲得のために有望作品への出資額を増加させていく
- 当該出資償却が終了すると営業利益は急拡大する

28/5以降は大型作品への出資により一時的に営業利益が急減し、翌期に急増する可能性がある

<基本戦略 I>

営業利益と出資償却の相関推移イメージ



< 作品展開 >

シリーズ作品



ハイキュー!!

劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦
興行収入112億円突破(7/12時点)



SPY x FAMILY

Season 3 製作決定



怪獣8号

続編製作決定

< 作品展開 >

展開中



異世界
スーサイド・スクワッド

TOKYO MX、BS11、ABEMAにて放送中



しかのこのこのこ
こしたんたん

TOKYO MX、BS日テレにて放送中



シンカリオン
チェンジ ザ ワールド

毎週日曜放送中
テレ東系列あさ8時30分～

< 作品展開 >

2024年8月より展開



君に届け
3RD SEASON

Netflixにて世界独占配信

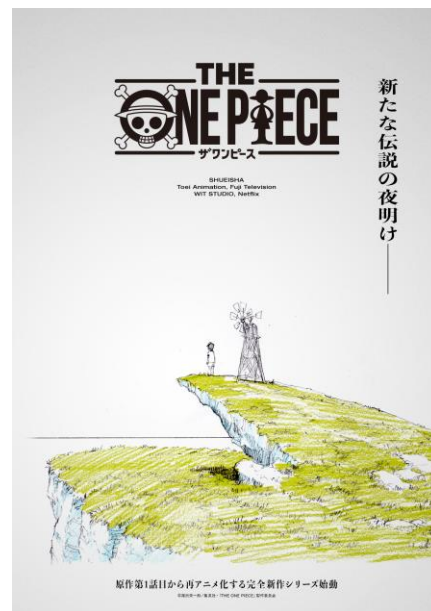
制作決定



「銀河英雄伝説」シリーズ

続編制作決定

日本テレビにて既存シリーズ放送中
第3、4シーズンはテレビ初放送



THE ONE PIECE

WIT STUDIOにて制作決定



本好きの下剋上

WIT STUDIOにて続編制作決定

< 作品展開 >

マッグガーデン(出版事業)作品のメディア化情報



戦国妖狐

全3クールにて完全アニメ化
2024年7月より第2クール放送中



魔導具師ダリヤはうつむかない
~Dahlia Wilts No More~

原作小説のTVアニメが
2024年7月より放送中※



ナイト・オブ・ザ・
リビングキャット

2025年TVアニメ放送予定



マジック・メイカー
—異世界魔法の作り方—

2025年TVアニメ放送予定

※ 当社グループはTVアニメ「魔導具師ダリヤはうつむかない」製作委員会には不参加
※ 北朝鮮の制作会社が関与していたと疑われる報道については、当該部分をすべて国内スタッフにより制作し直した上で放送すると製作委員会より発表

<基本戦略Ⅱ>

全世界マーケットに向けたダイレクトアプローチ

自社オリジナル商品の
企画・開発・製造

国内販路の拡大

海外販路の開拓

国内展開

自社EC



自社ECサイト限定のフェア開催



POPUP



店頭

アニメイトをはじめ販路拡大中

海外展開

bilibili

「劇場版ハイキュー!! ゴミ捨て場の決戦」の
中国公開に合わせてグッズ販売スタート

アニメイト

海外アニメイト店舗での販売



アニメイト KOREA main store ホンデ

その他

海外企業複数社とオリジナルグッズの
輸出交渉中

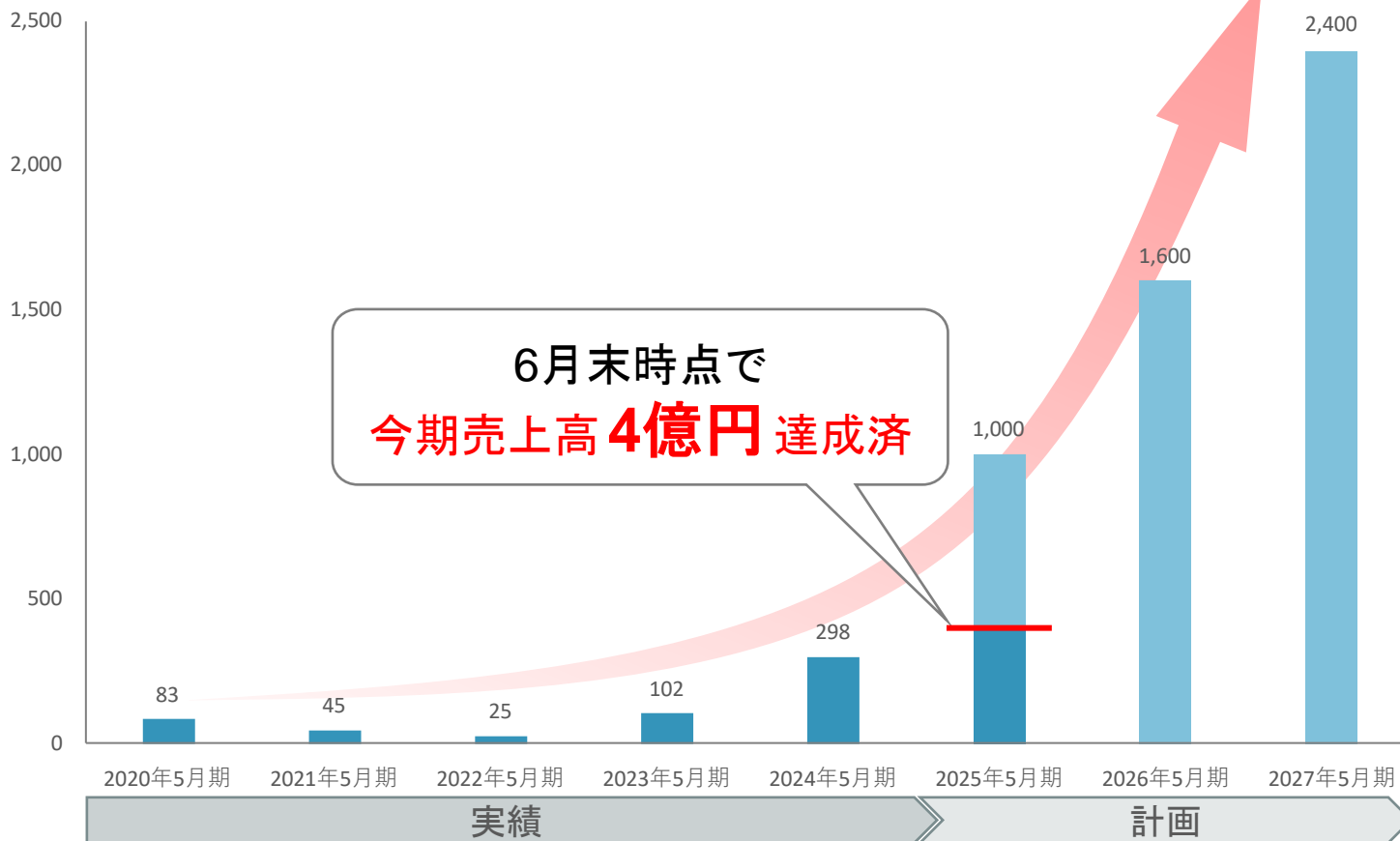


- ・ 弊社グループで制作したシリーズ作品を中心に全世界マーケットへ向けた商品化事業を展開
- ・ 「ハイキュー!!」や「SPY×FAMILY」などの人気作品が牽引役となり売上規模は拡大中
- ・ 国内外ともに販路開拓中であり、さらなる事業規模の拡大を目指す

<基本戦略Ⅱ>

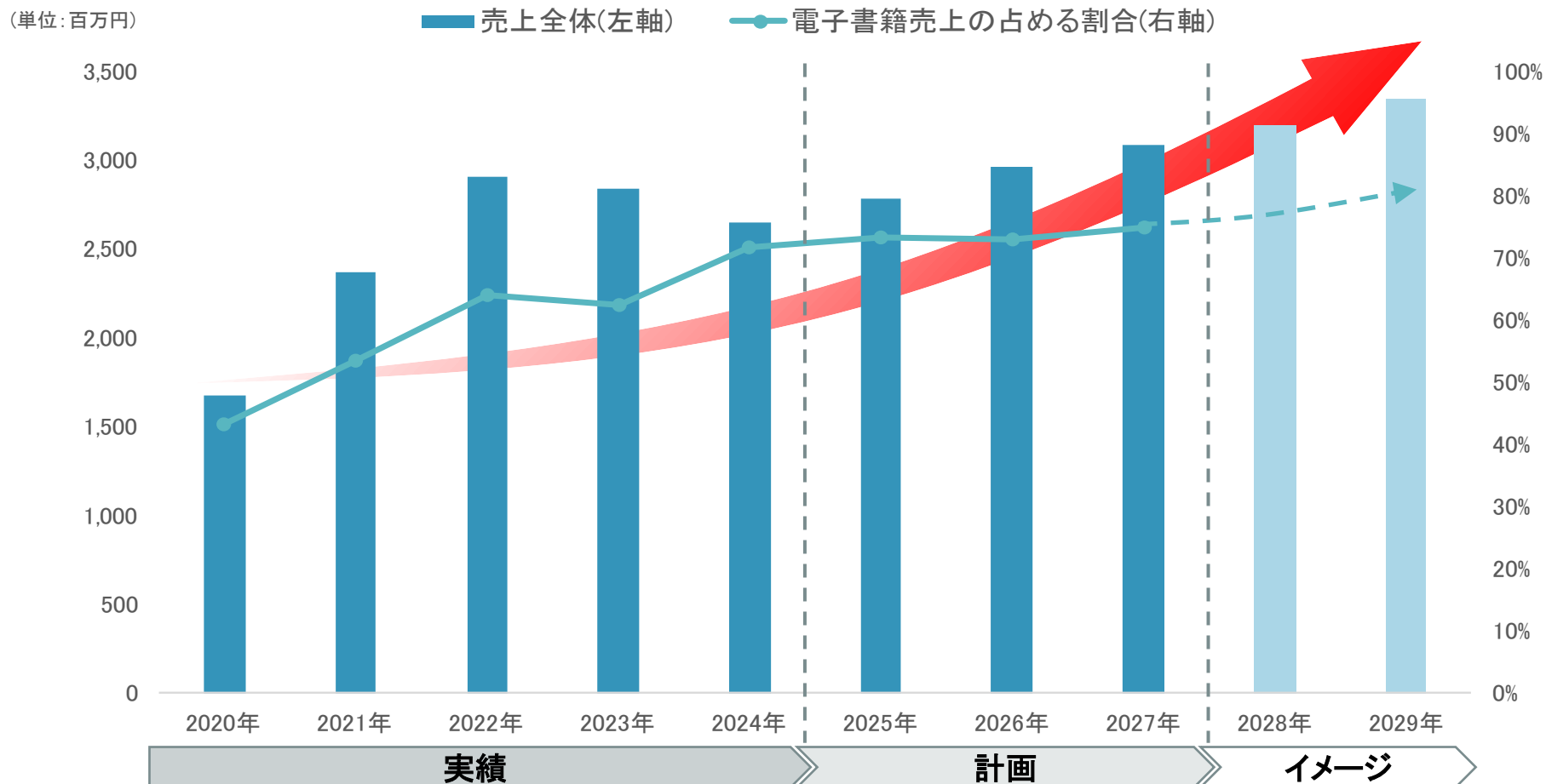
商品化事業の急伸

(単位:百万円)



- 自社商品開発とその海外販路の拡大戦略の結果が表れてきており、24/5は商品化事業が急伸
- 25/5は10億円の売上計画を見込んでいるが、24年6月末時点で今期売上高は4億円を達成済(計上は4Qの見込み)
- ヒットシリーズの継続と国内外の販路拡大を引き続き行っていくため商品化事業はグループの成長ドライバーとなる見込み

<出版事業について - 電子書籍>



- 「魔導具師ダリヤはうつむかない」テレビアニメ化をはじめ、各期に渡り複数のメディア化作品が予定されており、電子書籍を中心に売上高が堅調に推移する見込み

中期経営計画策定についての補足

- 映像制作事業

現在企画決定した作品群及び若干の受注見込みを計画に入れ込み策定しています

- 著作権事業について

現在稼働中の作品群は各製作委員会からの営業報告を根拠として金額を予測し、過去作品に関しては直近の著作権収入トレンドラインに基づいて金額を予測し策定しています

このため、稼働中作品の著作権収入については高い精度で予測可能となります
一方過去作品群は、製作委員会が何らかの新規営業を行った場合、計画した金額から上振れることとなります

- 出版事業

出版事業会社より算出されたオーガニックな成長トレンドに基づき計画を策定しています

- 弊社制作作品を利用したゲーム化につきまして

アカツキ制作による「怪獣8号」及びAiming制作による「銀河英雄伝説DNT」のアプリゲームは、製作委員会から両社へライセンスされたものであり、当社としてゲーム製作事業への出資は行っておりません

- ゲーム化に係るライセンス収入について

ゲーム化に係るライセンス収入は契約当初に一定額のライセンス料がまとめて支払われます

ゲームのローンチ後、当該収入から発生したロイヤリティ収入が契約当初のライセンス料を上回った場合、追加のライセンス料が支払われることとなります
また、契約当初のライセンス料は中期経営計画に反映されております

- 劇場作品の海外販売について

「SPY×FAMILY」劇場版及び「ハイキュー!!」劇場版の海外へのライセンス(劇場上映)は、契約当初に一定額のライセンス料がまとめて支払われます
海外での上映後、当該ロイヤリティ収入が契約当初のライセンス料を上回った場合、追加のライセンス料が支払われることとなります
なお、「SPY×FAMILY」劇場版の海外ライセンス料は24/5に計上済みです
「ハイキュー!!」劇場版の海外ライセンス料は25/5に計上予定です
海外での上映は、国内での上映と比べて製作委員会への収入は低くなる傾向があります

- 想定為替レート

海外販売の想定為替レートは135円で算出しております
金額規模から為替と損益の感応度は低くなります

また、円安の進行は短期的には海外ライセンス収入の増加という形で業績に寄与しますが、長期的には輸入物価の上昇による人件費の増大、機材費の高騰など映像制作事業原価上昇を招き、損益のマイナス方向へと影響が予想されます

上記以外に海外からのドル建て作品受注が一件ございます
受注額は、受注時(2024年2月)の為替レート(150.73円)で算出しております
当該作品の毎月売上累計額に対し、四半期ごとに為替の差損差益が計上される予定です

このため、映像制作進捗が進むにつれ、為替の影響額が大きくなるものが予想されます

- 「THE ONE PIECE」について

「THE ONE PIECE」のビジネス条件については開示可能な時期がまいりましたら今後の決算説明資料などで開示いたします

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、目標、予想数値等、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等さまざまな要因により大きく異なる可能性があります

©椎名軽穂／集英社・Production I.G
©遠藤達哉／集英社・SPY×FAMILY製作委員会
©おしおしお・講談社／日野南高校シカ部
©2023「劇場版 SPY×FAMILY」製作委員会 ©遠藤達哉／集英社
©2024「ハイキュー!!」製作委員会 ©古館春一／集英社
©士郎正宗・Production I.G/講談社・攻殻機動隊2045製作委員会
©2017 ヤマザキコレ/マッグガーデン・魔法使いの嫁製作委員会
©諫山創・講談社／「進撃の巨人」The Final Season製作委員会
©サイコパス製作委員会
©nini/MAG Garden ©Yashu/HIFUMI SHOBO
©Megumi Sumikawa/MAG Garden ©Amagishi Hisaya 2020/KADOKAWA
©防衛隊第3部隊 ©松本直也／集英社
Suicide Squad and all related characters and elements © & TM DC © 2024 Warner Bros. Japan LLC
©プロジェクト シンカリオン・JR-HECWK/ERDA・TX
©田中芳樹/銀河英雄伝説 Die Neue These 製作委員会
©尾田栄一郎／集英社・「THE ONE PIECE」製作委員会
©香月美夜・TOブックス
©水上悟志/マッグガーデン・戦国妖狐アニメ化事業部
©Amagishi Hisaya/MFブックス/製作委員会はうつむかない
©ホークマン・メカルーツ/マッグガーデン/ニャイリビ製作委員会
©鍋木カツキ/MFブックス/マジック・メイカー製作委員会